

令和元年度 『学校関係者 第三者評価』 3月文書により意見回答

A 様：エネルギー・住宅関連会社社長

B 様：社会福祉法人施設長

C 様：主婦

D 様：主婦

E 様：公認会計士

校長 相馬真吾

副校長 宮下靖広

教頭 大村 慎（書記）

《学校運営》

- ・部活動に積極的で毎年素晴らしい成果をあげられていると思います。文武両道が実践されていると思います。
- ・実業といえば普通科のスポーツの強さ、社会へ出てすぐ生かせる技術を身につけられる自動車科・機械システム科を思い浮かべますが、最近進路や普段の色々なことをとても親身になってくれる先生方の評判をよく聞きます。他校の先生も実業の先生達は仲が良いですね、と聞きました。そういう学校の職員の皆様の仲の良い雰囲気は生徒達にも伝わるので、そこもひとつの魅力ではないかと思います。
- ・アンケートより教職員をはじめ学校に携わる方々がとても意欲的であることが生徒に伝わっています。信頼関係があることが実業高校の発展につながっているのではないのでしょうか。
- ・学校の特色→生徒は自ら志望して入学してきていると感じられます。人として守るべきマナーや規範に関して教職員が生徒に対して真摯に向き合っていることが伺えます。教育活動→教職員からの回答を見て、生徒の自主性を育む取り組みを強化してみてもいいのでしょうか。生徒はクラブ活動には主体的に関わっていると思います。全般的には先生方が生徒に向き合う熱心さゆえかもしれませんが、生徒の主体性が弱いように思えます。

《教育活動》

- ・実業高校の自動車科が全道唯一となり、存在意義が高まったと思います。是非充実した指導を行って欲しいと思います。また、商業科の指導もさらに充実して欲しいと願います。
- ・ご近所に住んでいるお年寄りの方が「先生も生徒も一生懸命な学校だよ」と言っていました。新聞で見た図書館の一般開放など地域との交流もとても良いことだと思います。
- ・集団生活の中でも個々の能力や才能を伸ばす。実業高校ならではのたくさんの取り組みは、いつも素晴らしいと拝見しています。もっと多くの方に知ってもらいたいと思います。
- ・生徒指導→生徒と保護者の回答に若干の開きが見えます。保護者の目線からは物足りなさを感じているものと思われそうですが、立場上微妙なところではないでしょうか。
- 心と人権→高学年になるにつれて評価が下がっています。体の成長と心の成長がずれてきているのか、もう少し踏み込んだ対応の必要性があるのでしょうか。

《その他》

- ・アンケートを見て思いましたが、普通科と本校舎側の生徒と雰囲気少し違うので、集計が別であれば、またどちらかに足りないものが見えてくるのかなと思いました。
- ・これからも実業高校を応援しています。
- ・2月11日に開催しました「春光台雪まつり」において貴校サッカー部の生徒たちが審判等のお手伝いをしてくださいました。積極的にキビキビ動く姿を見て頼もしく映りました。また、片付けも率先して最後まで行っていただき、主担当の北海道療育園の人たちからも称賛の声がありました。今後ともよろしく願います。
- ・昨今は SNS などにより、不特定多数への中傷やフェイク情報の拡張などで、教員の方々の生徒への生活・学習指導が非常にデリケートになってきているとお察しします。

そんななかでも 8割強の生徒の皆さんが学校生活に満足しているのは、ひとえに教職員の皆様の熱意と努力の結果ではないかと思います。

今後は益々、情報の管理と迅速な対応が必要になってくると思います。学校運営者と教員の方々には情報の開示と共有を密接に行っていただき、より良い学園生活を創出し、生徒と保護者の方々と共に素晴らしい学園を作り上げていただくことをご期待申し上げます。

今後とも旭川実業高等学校の教職員の皆様、ならびに生徒の皆様の更なるご健闘をお祈り申し上げます。

※以上、第三者評価でいただいた意見をまとめました。今後の学校教育に生かしていきたいと考えます。